

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	LUMO 白金高輪校		
○保護者評価実施期間	2026年02月07日		2026年02月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	2026年02月19日		2026年02月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年02月21日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様との関係、子どもたちとの関係を重視することができていること。	運動と脳の関係、原始反射の観点からのアプローチを保護者様に周知している。 職員同士でお子さんの悩みを相談しあえたり、原因や対策を一緒に考えられる環境になっている。 その取り組みから、活動前の時間の遊びや会話の時間をたくさんとれている。 子どもたちの名シーンを共有していく。	保護者様のお困りごとをより深く把握できるように、面談や日々の会話を増やしていく必要がある。 ご家庭と事業所の方向性を一致できるような場にしていく必要がある。 毎日ひとつは子どもたちの成長点やいいところを見つけられるように心がけを引き続きしていく。
2	専門職員(理学療法士・保育士・教員)が在籍しており、多角的な視点で支援を考えられている。 そのための連携ができている。	活動前後の話し合いをたくさん行っている。 その際に、職員は笑顔で話をしている意識をして、お互いに助言をしあえる環境になっている。 専門の職員が状況に応じて対応を行うことができている。 一つの考えにならないように、思った意見を出せる環境を心掛けている。	スキルアップのための、研修や話し合いの時間を設けていく必要がある。 職員の自信が足りないように見られる。 自分の知識を深め、専門職員の自覚を持ち、様々な対応を積極的に行えるように心掛けていく必要がある。
3	少人数ではあるが、安定して運営ができていること。	現状職員が多くも少なくもないが、お子さまのできる活動を増やせている。 保護者様やお子さまからの信頼関係を重視して、安心してご利用できる環境を心掛けている。	一人ひとりができることを増やしていくことによって、量だけでなく支援の質を向上することができる。 自事業所だけの考えに留まえず、他校舎の関わり方や、他事業所の関わり方、ご家庭の関わり方なども参考にしながら視野を広げて支援の質を上げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間でスキルの差を感じていること。 緊急時の対応及び、支援での対応についての差。	一人一人の知識や適応能力の差がある。 支援や業務に対しても消極的な場面が多くみられる。 積極的に取り組む姿勢が、経験を能力として変換できる。 また、業務過多も要因と考えられ、知識の共有や勉強会の時間を作ることができていない。	まずは、どの事象においても積極的に取り組んでいく。学ぶ姿勢を忘れずに、自分も誰かにスキル、知識を伝えられる存在になるように意識をしていく。 OJTを組む体制を作り、職員へのフォロー体制を作っていく。 業務の効率化も一人一人が行っていく。 職員一人ひとりが与える側である意識をもち、積極的に業務や子どもたちへ関わりに行く。
2	設備、環境が好ましくない。	ジョイントマットの汚れが目立ちやすい。 立地が悪く、日照が当たりにくい場所。 空気の通りも悪く、環境として好ましくない。 劣化も見られ、立て付けも悪いところが目立つ。	現状、補強しながら清潔な状態を保てることよい。 今ある環境で難しい場合は資金や会社との意向をすり合わせ、場所を変えることも検討する。
3	マニュアルや研修の時間が少ないこと。 主に子どもとの関わりや運動療育としての補助などの研修やマニュアル。	現状マニュアルや研修もあるが、抽象的な表現や実際の対応に組み入れることが難しい内容も見られる。 支援対応の情報共有や理解が少ないために、対応に迷うことが見られることが多い。	マニュアルを増やすことで、子どもの支援の向上や対応の向上を図ることは直接的にはいかなないので、職員同士での情報共有を密にしていく。 また、支援の方向性を絞っていくためのコミュニケーションを増やす。 (活動中の職員同士のコミュニケーションも含む)